

# 白亜紀中ごろに起こった恐竜の大移動： ツノのない角竜のナゾを追え！



田中公教

## つりのりゅうい 篠山盆地の角竜類

大きなツノとカンムリをもつ恐竜・トリケラトプスは、約6600万年前、白亜紀の終わりごろの北アメリカ大陸で暮らした恐竜です。トリケラトプスの仲間は「角竜類」という恐竜グループに含まれます。角竜類は東アジアで誕生し、白亜紀中ごろにはじめて北アメリカ大陸へと渡ったと考えられていますが、“渡り”の詳細な時期についてはナゾが残っています。

兵庫県中東部・丹波地域は恐竜化石が見つかることで有名です。これらは約1億1000万年前、白亜紀中ごろのアジアに生息していた恐竜の化石です。特に篠山盆地からは、まだ大きなツノやカンムリをもたない原始的な角竜類の化石が数多く発掘されており、篠山盆地は日本一の角竜化石産地といえます。

## 東アジアから北アメリカへ

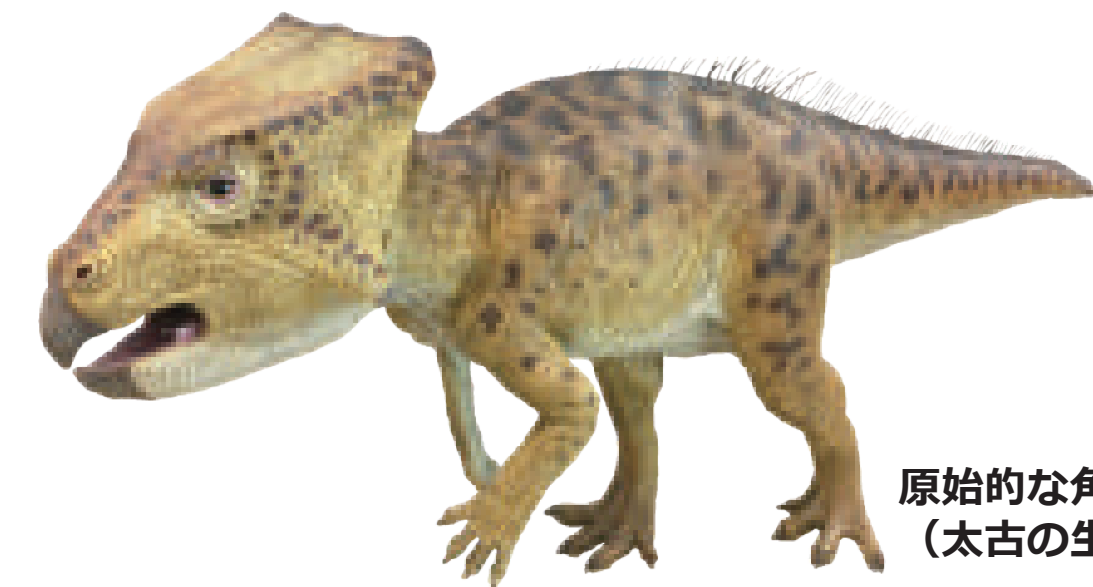
私たちの最近の研究によって、篠山盆地の角竜は、北アメリカ西部で発見された角竜と近縁であることが明らかになりました。当時のアジアと北アメリカは、「ベーリング陸橋」によって陸続きだったことが分かっています。私たちの研究結果は、アジアで産声をあげたツノのない角竜類は、約1億1000万年前にこのベーリング陸橋を渡って北アメリカへと渡っていったことを示しています。



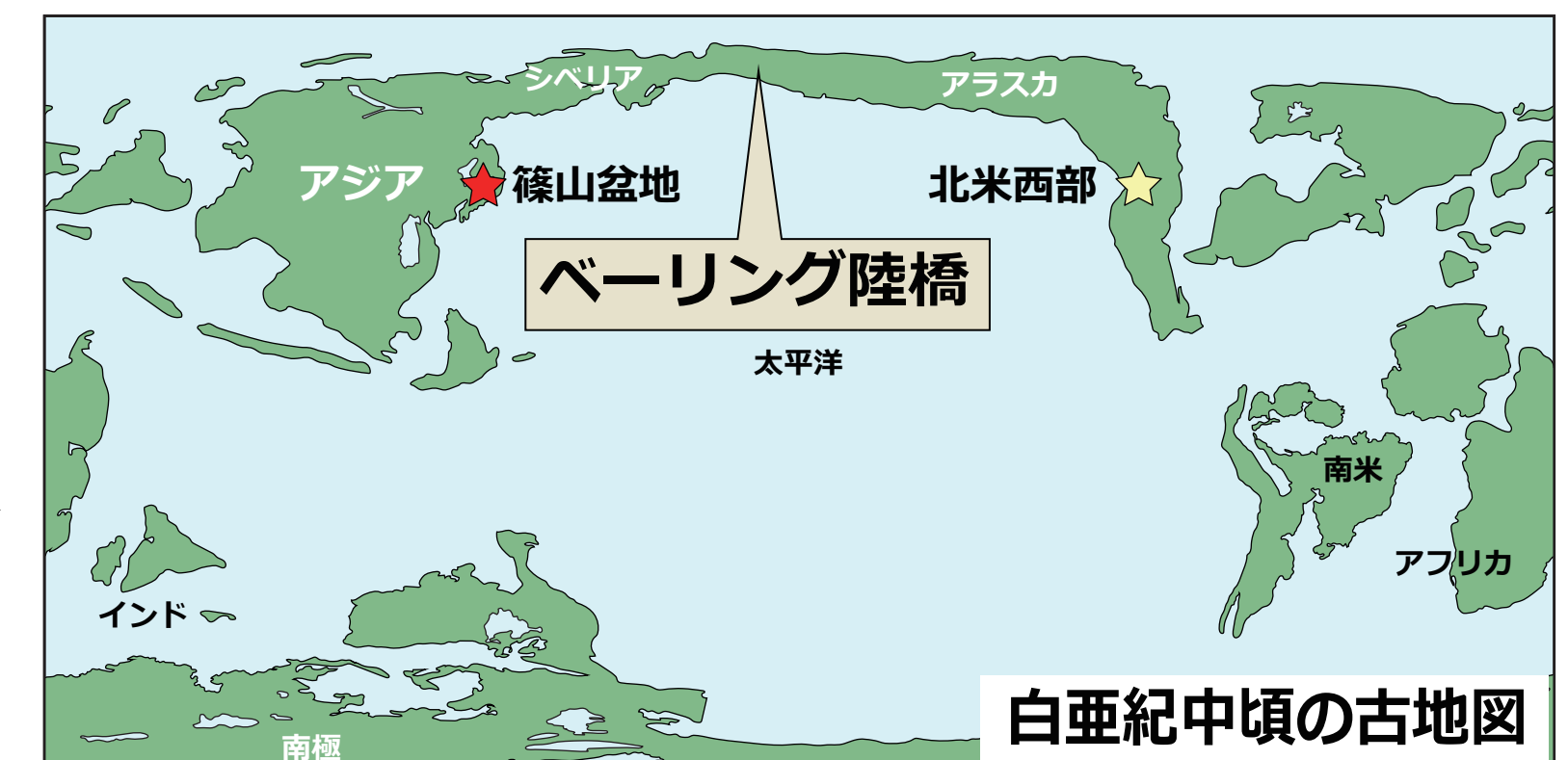
トリケラトプスの頭骨  
大きなツノとカンムリが特徴



トリケラトプスの生体復元  
(丹波竜化石工房所蔵)



原始的な角竜類の生体復元  
(太古の生きもの館所蔵)



白亜紀中頃の古地図

Scotese et al. (2016) をもとに作成